

第19回特別支援教育ミニセミナー in 山形

「自閉スペクトラム症の 息子をどう育ててきたか」

「ただただ『人として当たり前』の日常を教え続ける。」

簡単なようですが、実際には相当な覚悟と根気が必要になることです。木村ひろ子氏は、知的障害を伴う自閉スペクトラム症の息子さんとの2人3脚を続けて30年になります。特別な訓練をしているわけではありませんが、幼少期から決してなだらかではなかった道を、支援してくれる人々と連携しつつ大切に息子さんを育ててきました。当たり前のことを教え続けられた息子さんは、できることがとても増えました。今回のミニセミナーでは、木村氏がどのように息子さんを育ててきたかについて、具体例を豊富に交えてお話しいたします。また、息子さんが利用している生活介護事業所「のぞみの家」の施設長田中頼子氏からも息子さんの日ごろの様子などをお話しいたします。

保護者の立場から、医療、福祉、学校など関係者の皆様に、当たり前のことを教え続ける大切さについて、心からのメッセージと熱いエールをお届けします！

日時	平成30年8月18日(土) 13:00~16:30
場所	山形市保健センター 視聴覚室 〒990-8580 山形市城南町1-1-1 霞城セントラル3階
講師	石井 玲子氏 (いしい醫院院長 精神科医師) 木村ひろ子氏 (知的障害を伴う自閉スペクトラム症をもつ子供の母) 田中 頼子氏 (生活介護事業所「のぞみの家」施設長)

石井 玲子氏 プロフィール

30年の医師生活で前半は山形県立総合療育訓練センター小児科に、後半は二本松会上山病院精神科に勤務する。平成27年10月、山形市富の中にて、いしい醫院(児童・思春期、精神科)院長となる。子供から大人まで幅広く発達障害や精神障害を診ることができる稀有な人材。

木村 ひろ子氏 プロフィール

知的障害を伴う自閉スペクトラム症の息子さんとの2人3脚を続け30年が過ぎている。特別な訓練をしているわけではなく、ただただ「人として当たり前」の日常を教え続けている。現在、息子さんは生活介護事業所「のぞみの家」を利用している。

信念は、「外でして欲しくないことは家でもさせないこと」、「一人で最後までできることを増やすこと」。母の趣味は7匹のチワワのお世話(やや病的なほど)。

田中 頼子氏 プロフィール

昭和62年のぞみの家開所から31年間、延べ108人との出会いがありました。利用者一人ひとりが私たちの先生であり、小さな成長や新しい発見にわくわくしながら支援の経験を積ませていただいています。

日程	12:30~	開場
	13:00~13:30	「自閉スペクトラム症の特性の理解 ~教えてほめることの大切さ~」(石井玲子氏)
	13:30~14:30	「自閉スペクトラム症の息子をどう育ててきたか」 Ⅰ. 誕生から就学、卒業まで (木村ひろ子氏) (聞き役: 石井玲子氏)
	14:45~15:45	Ⅱ. 就労してから現在まで (木村ひろ子氏) (聞き役: 田中頼子氏)
	16:00~16:30	Q&A (皆さまのご質問にお答えします)

資料代 1,000円 (当日、受付でお支払いください)

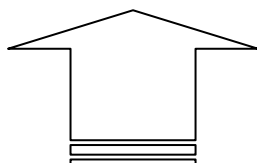
主催 「特別支援教育セミナー in 山形」実行委員会

共催 いしい醫院

後援 山形県教育委員会

申込方法・連絡先は裏面をご覧ください。

※今後のセミナーにつきましては、toyoki.orgをご覧ください。



第19回特別支援教育ミニセミナーin山形 FAX送信票

申し込み先 023(606)5460 (eFax)

(ふりがな) 申込者氏名 名簿作成の都合上、 それぞれに ふりがなを お書きください。	代表者 (所属)
	(所属)
	(所属)
	(所属)
代表者の住所 ()個人 ()所属先	〒 -
代表者電話番号 ()個人 ()所属先	

申し込み方法

専用HP、メール、FAXのいずれかでお申し込みください。

○専用HPから <http://www.toyoki.org/>

○FAXから 上の送信票をお使いください。添書は不要です。

○メールから murayama@toyoki.org FAXと同じ内容を送信ください。

その他

お問い合わせは、上記の専用HPかメールでお願いいたします。

Q&A用紙とチラシは、専用HPからもダウンロードできます。

お送りいただいた情報は、このセミナーでのみ使用いたします。